

『土着的水害復興』

- 茨城県常総市を対象として -
 東洋大学 福祉社会デザイン研究科 人間環境デザイン専攻 古渡 大

【2-3 市民参加型ワークショップ】
【復興期からの内覧会及びフューチャーセッション】

水害発生後には「復興期」は重要視し、住民参加型ワークショップを通じて復興期からの内覧会を実施する。復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。

【WSから生まれた3つの復興アイデア】
 アイデア1
 アイデア2
 アイデア3

【復興期からの内覧会及びフューチャーセッション】

復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。

【復興期からの内覧会及びフューチャーセッション】

復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。

【復興期からの内覧会及びフューチャーセッション】

復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。復興期からの内覧会とは、水害発生後、被災地を視察し、復興期からの内覧会を実施する。

3 自力復興
【3-1 自力復興の概要】

自力復興とは、被災者が自力で復興に取り組むこと。自力復興とは、被災者が自力で復興に取り組むこと。

【3-2 復興手順】

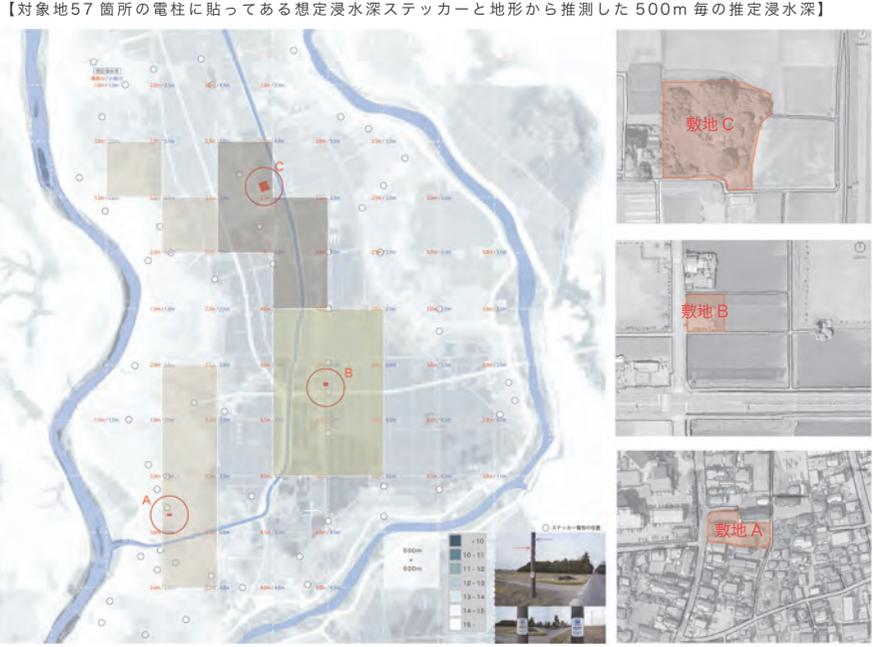
復興手順とは、被災者が自力で復興に取り組むための手順。復興手順とは、被災者が自力で復興に取り組むための手順。

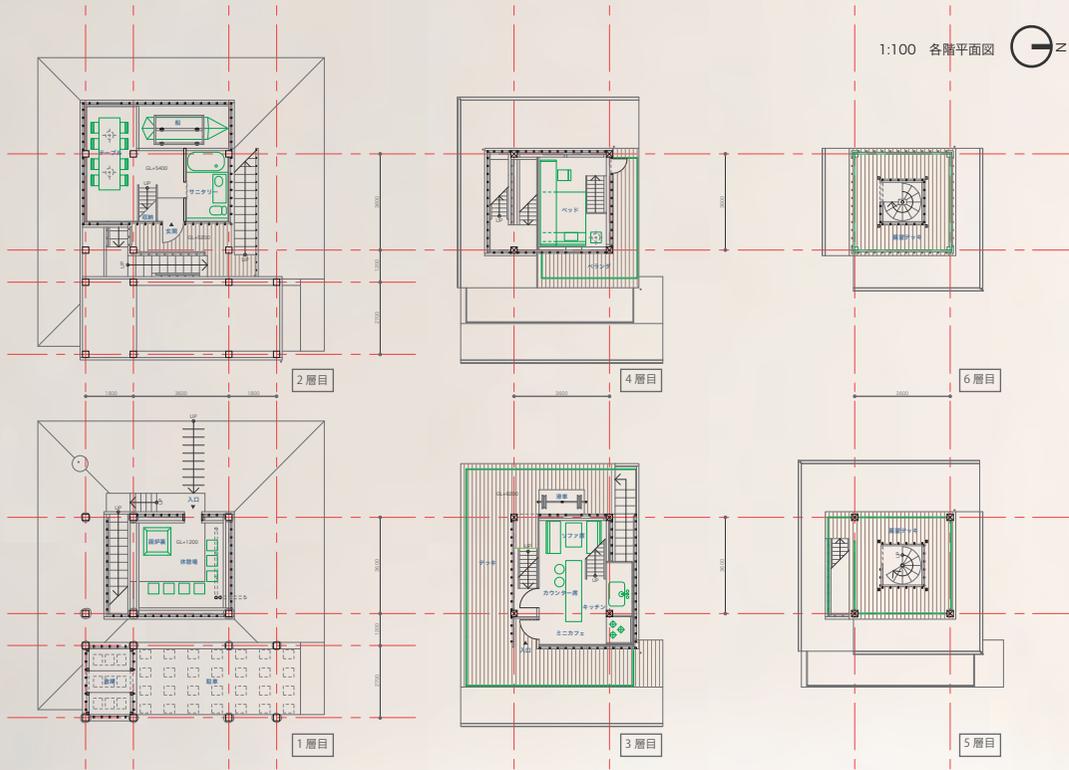
【3-2 復興手順】

復興手順とは、被災者が自力で復興に取り組むための手順。復興手順とは、被災者が自力で復興に取り組むための手順。

【3-2 復興手順】

復興手順とは、被災者が自力で復興に取り組むための手順。復興手順とは、被災者が自力で復興に取り組むための手順。



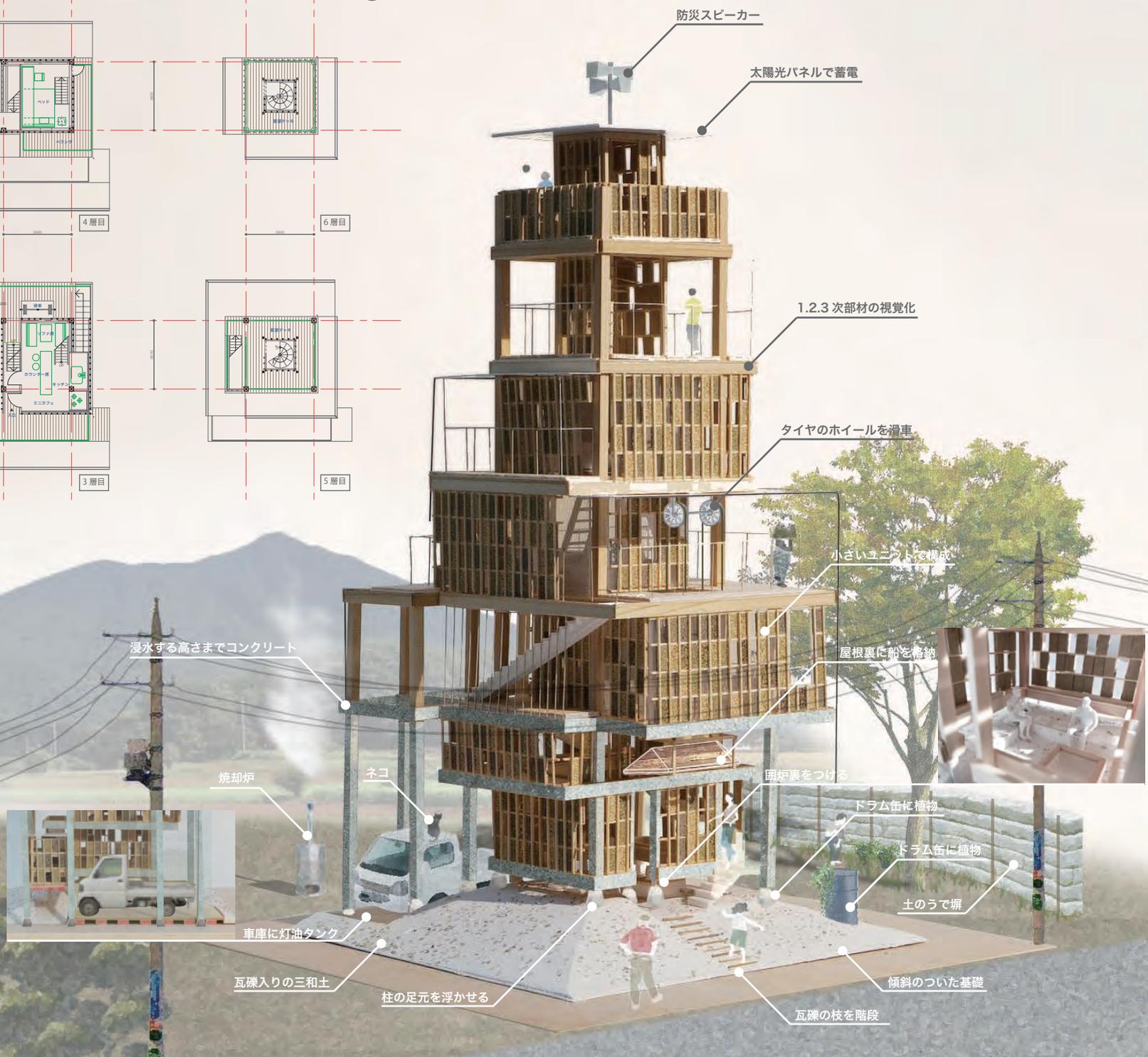


『農城』 敷地B

海拔10m
想定最大浸水深5m

-開けた大地を見渡す展望台-

石下の豊田城と対峙する水海道の農城。主な機能は展望台、農業体験、工具の貸し出し、ミニカフェ、住宅である。前面道路を挟んで小学校があることから小学生が施工に関われるように小さいパネルの組み合わせによって外壁が構成されている。四角く区切られた外壁は田園風景の延長であり、市内の畑や田んぼから土や葉を収集し、場所によって様々な表情を見せる土壁となる。被災時には避難タワーとなり、この周囲は救助者がもっとも多かったことからスムーズな情報伝達のために、防災スピーカーを設置する。



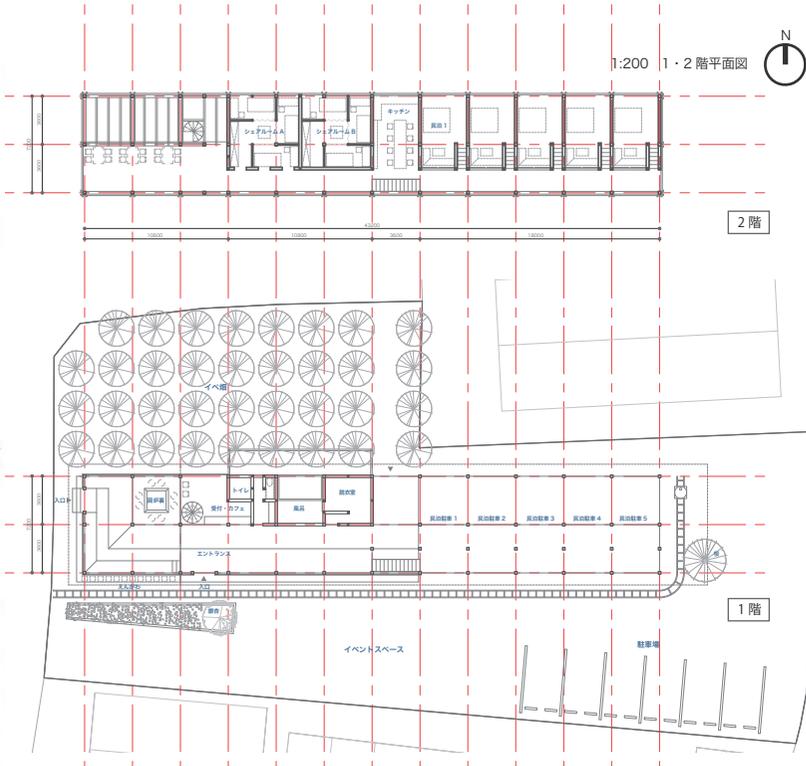
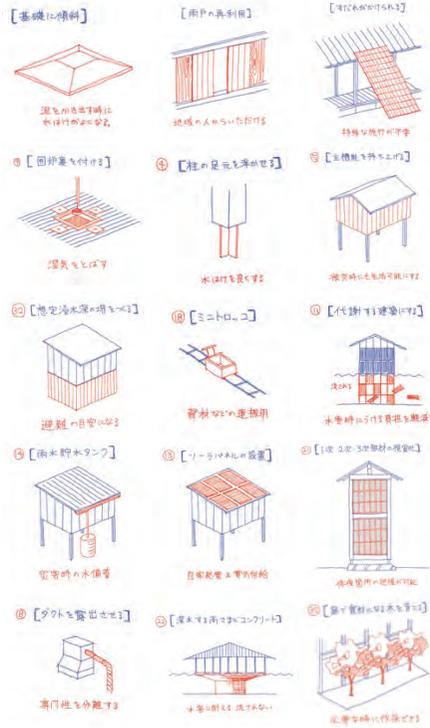
『イペの長屋』 敷地A 海拔 12m 想定最大浸水深 3m

- 日本の若者3人と外国の若者3人の計6人で暮らす国際シェアハウス -



「イペの長屋」は国際シェアハウスである。このシェアハウスでは日本人の若者3人と外国人の若者3人の計6人が暮らし、併設するカフェと民泊は彼らによって運営され、定期的に地域の国際交流を促進するイベントを開催することで、多文化共生の拠点となる。国際交流の象徴として春になると黄色い花を咲かせるブラジルの国樹イペを庭で育てて、黄色い花見イベントなどを開催する。元々長屋であった製麺所の空間性を継承し、長い建築にする。

壁に取り付けられた雨戸は、地域住民からの頂き物によって構成され、様々な文化の違いを許容するように多様な表情を見せる。また建物に沿って敷かれたレールを残し、モノレールが敷地内を走る場所にする。災害時にはボランティアの拠点として機能し、大きな屋根根を利用したソーラー発電で電気供給を行う。

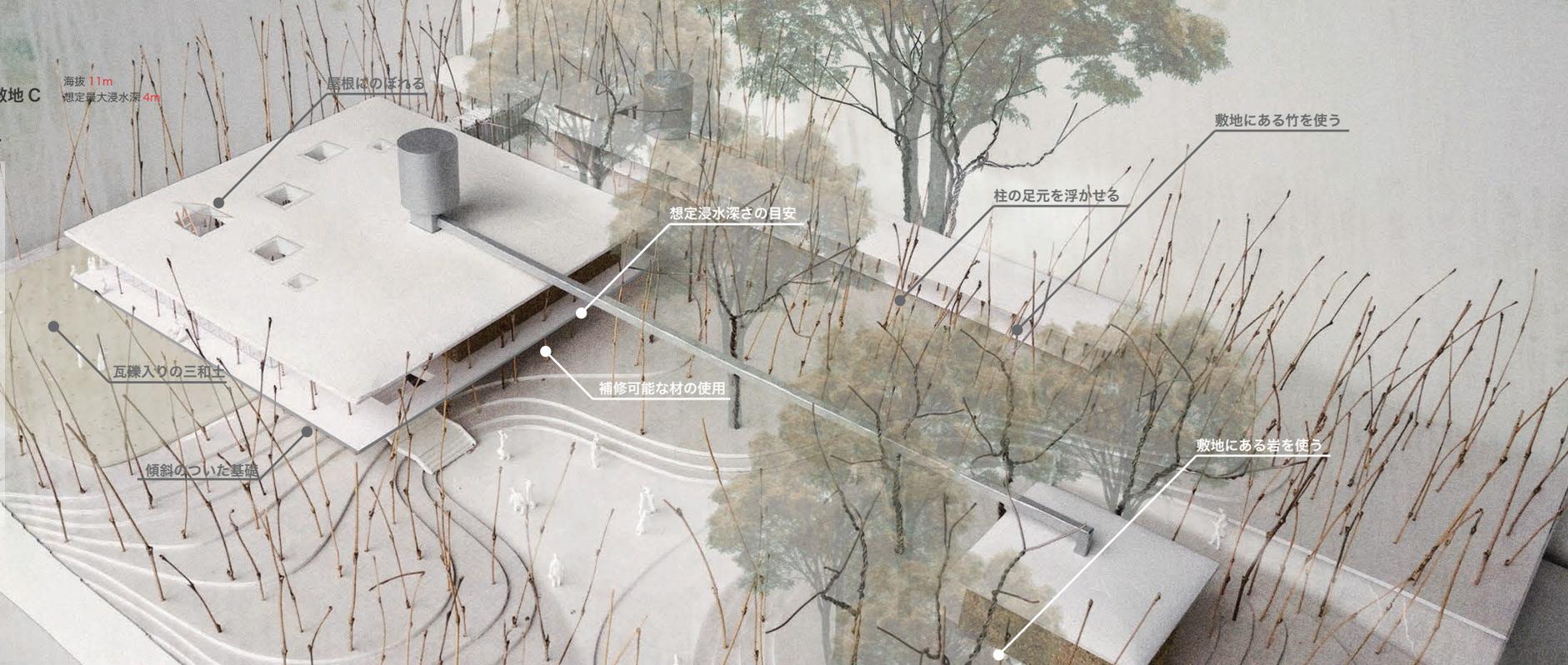


『竹林の湯』敷地 C

海拔 11m
想定最大浸水深 4m

- 竹林の中に浮遊する温泉 -

道の駅の離れとしての温泉の提案。敷地に生えている竹を利用し、竹の中に鉄筋コンクリートを充填した竹 RC の柱をランダムに配置してスラブと屋根を支えることで、竹林の中で浮遊する温泉をつくる。災害時には温泉を市民やボランティアに安く解放し、緊急時でも安定した電力確保のために地熱発電を利用する。成長の早い竹は緑かえし利用できるため、竹を各要素に多く含む建築とする。



瓦礫入りの三和土

傾斜のついた基礎

屋根はのぼれる

想定浸水深さの目安

補修可能な材の使用

柱の足元を浮かせる

敷地にある竹を使う

敷地にある岩を使う

【設計手法】

① 敷地にある竹の利用



② 基礎の傾斜



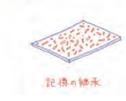
③ 屋根はのぼれる



④ 想定浸水深への対応



⑤ 瓦礫入りの三和土



1:200 平面図



【竹充填コンクリート 1:1 スタディ】



【アプローチ】



【浮き湯】

